
2016年2月期第2四半期 決算説明会

イオンディライト株式会社

代表取締役社長 中山 一平

2015年10月7日

©2015 Aeon Delight All Rights Reserved

§ 1 2016年2月期 上期の業績報告、及び通期見通し

§ 2 優先経営課題に対する取り組み

業績サマリー

増収増益、過去最高益を更新

単位: 億円

	2016年2月期2Q累計			前年同期	
	金 額	売上比 (%)	前年比 (%)	金 額 (実績)	売上比 (%)
売上高	1,427	100.0	106.5	1,340	100.0
営業利益	81	5.7	105.4	77	5.7
経常利益	81	5.7	105.4	77	5.8
当期純利益	46	3.3	106.9	43	3.3

©2015 Aeon Delight All Rights Reserved 3

【業績サマリー】

(1) 売上高1,427億円(前年比+87億円、106.5%)

- ① 6事業で前年比増収
- ② 特に建設施工、サポートの両事業では二桁成長
- ③ イオングループ外顧客との取引拡大、イオングループ新店開設、既存店舗活性化工事等の工事請負、子会社(株)カジタクの伸長が寄与

(2) 売上総利益185億円(前年比+13億円、107.6%)

- ① 売上増加による利益増加(前年比+11億円)
- ② 売上総利益率改善による利益増加(前年比+2億円)

(3) 営業利益81億円(前年比+4.1億円、105.4%)

- ① 戦略人材の採用による人件費の増加、新規物件受託に伴う先行投資による販管費の増加(前年比+9.0億円、109.4%)
- ② 販管費が売上総利益の伸び率を上回ったものの計画に沿った増益

(4) 経常利益81億円(前年比+4.1億円、前年比105.4%)

(5) 当期純利益46億円(前年比+3.0億円、前年比106.9%)

【ご参考】公表予想値(2016年2月期第2四半期累計予想値)との比較

売上高…予想値1,380億円に対し1,427億円、103.5%の実績

営業利益…予想値80億円に対し81億円、101.5%の実績

経常利益…予想値80億円に対し81億円、101.7%の実績

当期純利益…予想値45億円に対し46億円、104.0%の実績

セグメント別売上高

6事業で前年比増収。建設施工、サポートは二桁成長

※ 自販機事業は前期にデジタルサイネージ型自販機を大量設置。今期は反動落ち(計画繰込済)

単位: 億円

	2016年2月期2Q累計			前年同期	
	売上高	構成比 (%)	前年比 (%)	売上高	構成比 (%)
設備管理事業	243	17.1	106.7	228	17.1
清掃事業	233	16.3	106.7	219	16.3
警備事業	186	13.0	104.3	178	13.3
建設施工事業	262	18.4	114.2	229	17.2
資材関連事業	245	17.2	105.2	233	17.4
自販機事業	169	11.9	95.3	178	13.3
サポート事業	86	6.1	118.2	73	5.5

©2015 Aeon Delight All Rights Reserved 4

【セグメント別売上高】

(1) 設備管理事業

病院施設等グループ外物件の新規受託、イオン新店の業務受託等により増収
法改正に伴いフロン管理代行業務の受託を集中的に推進、受託事業所を1,300強に拡大

(2) 清掃事業

設備管理事業同様、新規受託拡大により増収。医療関連施設に向けた独自の衛生清掃
モデルを完成し新規開拓のツールに

(3) 警備事業

設備管理同様、新規受託拡大により増収。イオン施設では警備に接客サービスを
取り入れたアテンダーサービスが好評で、導入店舗数は36店舗まで拡大

(4) 建設施工事業

活性化、原状回復工事、省エネ工事等の各種工事の受託が拡大
工事見積の精緻化、適切な時間管理により収益性を向上

(5) 資材関連事業

新規取引開始、既存顧客との取引量を拡大

(6) 自販機事業

前期の自販機大量設置が一段落し今期は減収計画。事業構造、利益構造
の変革に向け、サイネージ自販機広告ビジネスを開始、キャラクターデザインの自販機開発

(7) サポート事業

連結子会社である(株)カジタクが一般家庭向け家事代行サービス「家事玄人(カジクラウド)」
の販売を前年比 約1.5倍に拡大し、サポート事業の成長に貢献

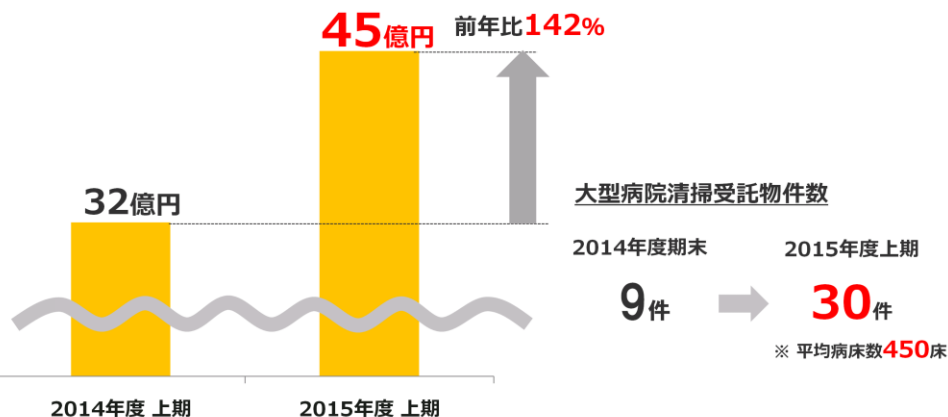
- ① イオングループ外顧客の拡大
- ② 海外での着実な事業拡大
- ③ 国内連結子会社の成長
- ④ 環境価値向上への取り組み

① イオングループ外顧客の拡大

商業施設から病院、ホテル、大学などの大型施設へ

新規グループ外売上高

※ イオンディライト単体数値



©2015 Aeon Delight All Rights Reserved 6

【① グループ外顧客の拡大】

上期 新規グループ外売上高は前年比142%の45億円
病院をはじめ、衛生清掃(※)を切り口にターゲットとする大型施設の受託拡大

※ 衛生清掃・・・新型インフルエンザ、ノロウイルスなど感染に関する問題が表面化する中、2013年度より事業開発を開始した新事業。美観の維持を重視した従来の「清掃」に加え、除菌・殺菌といった感染対策や除塵技術を含めた衛生管理サービス

■ 商業施設で培った技術・ノウハウを他用途施設へ展開

- (1) 衛生清掃を切り口にターゲット施設を病院、ホテル、大学に
- (2) 施設用途毎のサービス開発に取り組む
- (3) 強みを活かし、切り替え時の不安を払拭
 - ① 業界最大手企業としての信用力・安心感
 - ② 延べ16,000名超の有資格者を含む人材力、調達確保力
 - ③ 全国ネットワークによる緊急時支援体制

① イオングループ外顧客の拡大

病院、ホテル、大学など多様な用途の大型施設で受託を拡大

新たなサービス提供先



➡ 最大の課題は人材確保

©2015 Aeon Delight All Rights Reserved 7

【① グループ外顧客の拡大】

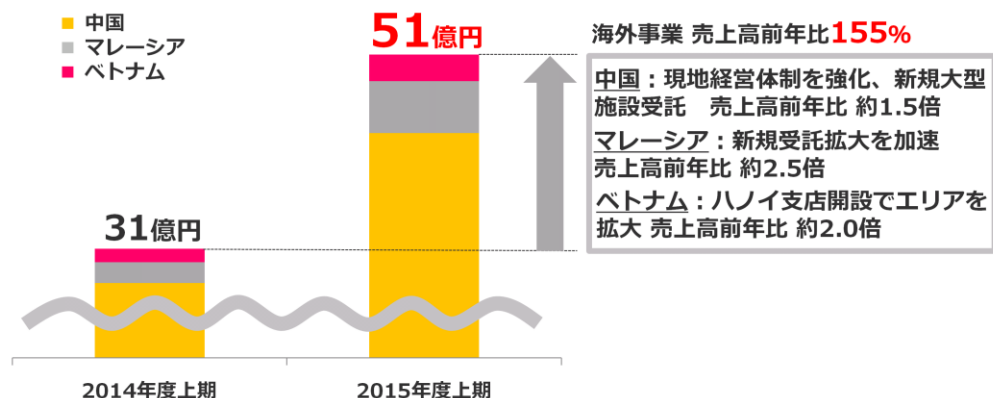
※ 掲載物件は新規受託物件の一例

- ① 企業や団体において保有する施設の管理を品質・コストの両面から見直す動きが見られ、ファシリティマネジメント業務の一括委託の引き合いが増加
- ② 顧客動向の追い風を背景に衛生清掃による病院の受託拡大に加え、ホテル、大学、研究所、物流センター、工場など従来あまりサービスを提供できていなかった用途の施設で受託を拡大
- ③ 最大の課題は人材確保。新規引き合い物件を確実に取り込んでいくために人材の確保は急務

② 海外での着実な事業拡大

中国・マレーシア・ベトナム 各国で大幅成長

海外事業 売上高



©2015 Aeon Delight All Rights Reserved 8

【② 海外での着実な事業拡大】

上期 海外事業売上高は前年比155%の51億円
事業基盤を獲得してきたことで中国・マレーシア・ベトナム各国
で大幅成長。通期では、海外事業で売上高100億円の大台超えを見込む

(1) 中国

バブル崩壊により、新規不動産開発案件の一部に停滞が見られるが当社グループへの影響は軽微。中国の中核子会社は不動産市況の影響を受けにくい政府系物件が多く、また、イオンモール新店の受託などにより業績は堅調に拡大中

(2) マレーシア

サービス供給体制の強化により受託拡大を加速
10月に清掃事業で地場有力企業と業務提携開始。マレーシア最大級の小売業に成長しているイオン店舗の受託を一気に拡大することが可能に

(3) ベトナム

10月にハノイにイオン3号店(イオンモール・ロンビエン)が開業
ハノイ支店開設により、同エリアにも事業展開が可能に
南部ホーチミン、北部ハノイを拠点に、日系企業への営業強化を推進

ディライトウェイ ～天津爆発事故に際して～

天津爆発事故では爆心地に近い3件の管理物件が被災

現地スタッフは**ディライトウェイ**を体現し、被災直後より現地復旧活動を開始。日中で対策本部を設立し、**危機管理能力**を発揮

事故直後より復旧活動に尽力した被災物件の責任者たち



後日、お客さまより
贈呈された感謝の旗

被災直後のイオンモール天津泰達SC



9月20日には一部で営業再開
全館オープンに向けて、
復旧活動が続ける。

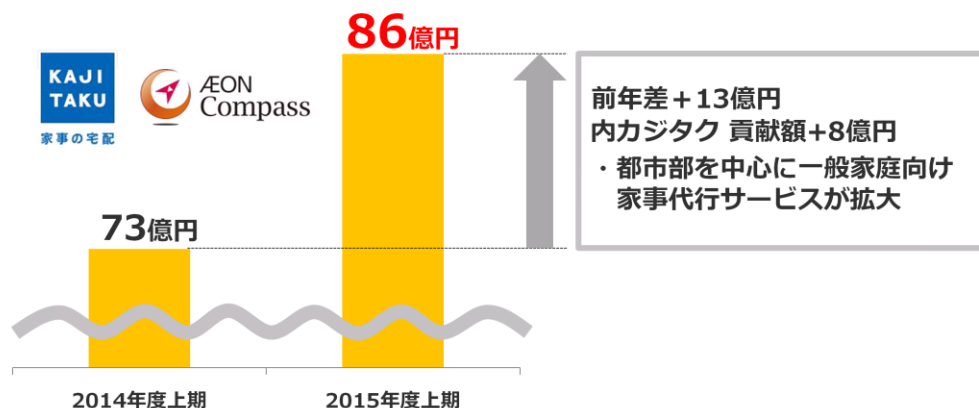
【ディライトウェイ ～天津爆発事故に際して～】

- ① 8月12日に発生した天津爆発事故では、爆心地から約2kmに位置するイオンモール天津泰達SCを含む、計3件の管理物件が被災
- ② 現地では当社従業員が、自らも被災するなど不自由な生活を強いられる中であって、お客さまの施設を守るという使命感から当社従業員が率先して復旧活動に尽力
- ③ 被災により大きなダメージを被ったお客さまより、その誠実かつ責任感にあふれた姿勢を高く評価

③ 国内連結子会社の成長

サポート事業部門の子会社が大きく成長

サポート事業売上高



©2015 Aeon Delight All Rights Reserved 10

【③ 国内子会社の成長】

(1) 株式会社カジタク

都市部を中心に市場が拡大する家事代行サービスを提供するカジタクでは、「家事玄人(カジクラウド)」が販売を大きく拡大
(2015年度上期 売上高33億円、前年比 約1.3倍強)

(2) イオンコンパス株式会社

法人向けを中心に国内・海外の旅行を取り扱うイオンコンパスでは、法人向け出張サービス、及び東京・大阪・名古屋などで展開する貸し会議室事業が高稼働率と好調

④ 環境価値向上への取り組み

フロン管理代行業務を拡大 全国対応を強みに国内シェアトップクラス

2013年度より冷媒フロン類取扱技術者を育成 **500名超**が資格を取得

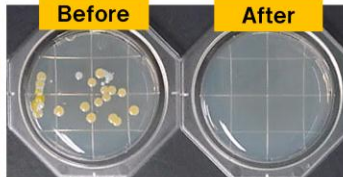


26法人、2,100以上の
事業所で受託（2015年度通期）
国内シェア トップクラス（※）

※ 一般財団法人日本冷媒・環境保全機構
登録事業者数

衛生清掃の進化 細菌やウィルスの検査分析機能を強化

ホテルや大学、研究所、食品加工工場へ



（写真左）
衛生清掃による除菌効果（ドアノブ）

©2015 Aeon Delight All Rights Reserved 11

【④ 環境価値向上への取り組み】

（1）フロン管理代行業務を拡大

- ① 2015年4月に改正フロン法が施行。フロン排出業者への規制がより厳格に
- ② 2014年度より、フロン類取扱技術者を育成
- ③ 500名超の資格取得者と全国対応を強みにフロン管理代行国内シェアトップクラス※

※ 一般財団法人日本冷媒・環境保全機構登録事業者数

（2）衛生清掃の進化

- ① 細菌やウィルスの検査・分析機能の強化や空気中の粉塵測定
- ② ATP測定法（※）による評価基準作り（品質の見える化）に取り組む
→ 病院のパブリックゾーンに加え、クリーンルームや手術室など、
より衛生への要求水準が高いゾーンへのサービス提供へ

※すべての生物の細胞内に存在するATP（アデノシン三リン酸）を酵素などと組み合わせて発光させ、その発光量を測定する方法。

連結貸借対照表

単位:億円

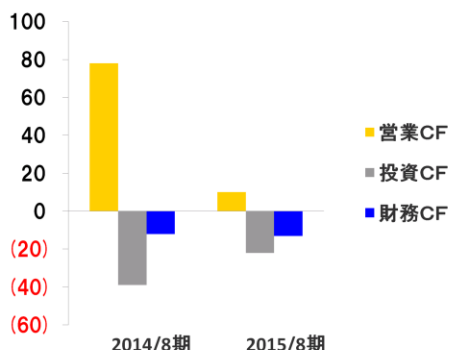
	前年度末 (2015/ 2/28)	当半期末 (2015/ 8/31)	増減額		前年度末 (2015/ 2/28)	当半期末 (2015/ 8/31)	増減額
流動資産	1,044	1,081	36	流動負債	466	466	0
固定資産	215	212	▲3	固定負債	19	17	▲2
有形固定資産	43	45	2	負債合計	485	483	▲1
無形固定資産	109	108	▲0				
投資等	62	57	▲4	純資産合計	774	809	35
資産合計	1,260	1,293	33	負債・純資産合計	1,260	1,293	33

©2015 Aeon Delight All Rights Reserved 12

【連結貸借対照表】

- (1) 資産合計:1,293億円(前年度末比+33億円、102.6%)
 - ・資産負債構造や投資・資金調達等に特筆事項はなく、営業活動に伴う純利益計上と配当流出で純資産に多少の変動
- (2) 資産項目の変化:流動資産+36億円、固定資産▲3億円
 - ① 流動資産・・・現金及び預金が24億円減少したものの、受取手形及び売掛金、電子記録債権を合わせた売上債権が42億円、関係会社寄託金が8億円増加
 - ② 固定資産・・・保有有価証券の一部を売却
- (3) 負債合計:▲1億円
 - ・支払手形及び買掛金、電子記録債務を合わせた仕入債務が24億円増加し、流動負債その他が24億円減少
- (4) 純資産項目の変化:+35億円
 - ・半期純利益の計上46億円、配当の実施13億円により利益剰余金が33億円増加
- (5) 自己資本比率
 - ・自己資本比率は前連結会計年度末59.8%から1.1ポイント増加し60.9%

連結キャッシュフロー計算書



	前年 2014/8	当半期 2015/8	増減
営業活動キャッシュ・フロー	78	10	▲67
投資活動キャッシュ・フロー	▲39	▲22	17
財務活動キャッシュ・フロー	▲12	▲13	▲0
現金及び現金同等物の 期末残高	145	128	▲17

主な増減要因 単位:億円

【営業活動CF】10億円

税引前当期純利益	82億円
売上債権の増減額(▲は増)	▲41億円
仕入債務の増減額(▲は減)	25億円

【投資活動CF】▲22億円

関係会社消費寄託増減	▲8億円
固定資産の取得支出	▲13億円

【財務活動CF】▲13億円

支払配当金	▲13億円
-------	-------

©2015 Aeon Delight All Rights Reserved 13

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(1) 営業CF10億円(前年比▲67億円)

- ① 税金等調整前四半期純利益の計上82億円、売上債権の増加41億円、仕入債務の増加25億円、法人税等の支払36億円により、10億円の収入
- ② 手形決済等が決算日の曜日まわり影響により前年比では▲67億円

(2) 投資CF▲22億円(前年比+17億円)

- ① 有形及び無形固定資産の取得による支出13億円、関係会社消費寄託金の寄託と返還による純支出8億円により、22億円の支出
- ② 関係会社寄託金への預け額が減少し前年比では+17億円

(3) 財務CF▲13億円(前年比▲0億円)

- ・ 配当金の支払により、13億円の支出

(4) 現金及び現金同等物残高128億円(前年比▲17億円)

- ・ 現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ26億円減少し128億円

2016年2月期 営業利益拡大策

2016年2月期 通期営業利益計画 170億円（前年比+12億円）

営業利益拡大策	通期対前年 増減額（億円）	上期進捗 （億円）	下期取り組み
① イオングループ外新規顧客拡大	10～15	5	・病院、ホテル、大学、オフィスビル ターゲット施設の受託拡大
② 各事業の利益率改善	10～15	2	・清掃業務標準化による利益改善 ・資材物流改革によるコスト削減 ・活性化・原状回復工事による寄与
③ 子会社事業伸長	5	5	・カジタクの通販売上拡大 ・海外新店受託の拡大に伴う利益貢献
④ イオングループ取引拡大	5	1	・イオン大型店受託
①～④合計 粗利増加額	30～40	13	
販売管理費（▲は増加）	▲20	▲9	・適切なコントロールを実施するもの の成長に向けた投資は積極的に推進
計画営業利益増加額	10～20	4	

※①②④はイオンディライト単体の数値

©2015 Aeon Delight All Rights Reserved 14

【2016年2月期 営業利益拡大策】

(1) 2016年2月期 通期営業利益計画 170億（前年比+12億円）に対し、
上期進捗はほぼ計画通りの+4億円。

(2) 下期は、前年比+8億円以上の営業利益を確保できる見通し

2016年2月期の業績見通し

単位:億円

	2016年2月期通期予想			2015年2月期実績	
	金 額	売上比 (%)	前年比 (%)	金 額 (実績)	売上比 (%)
売上高	2,800	100.0	105.0	2,667	100.0
営業利益	170	6.1	107.2	158	5.9
経常利益	170	6.1	106.6	159	6.0
当期純利益	94	3.4	107.7	87	3.3

©2015 Aeon Delight All Rights Reserved 15

【2016年2月期の業績見通し】

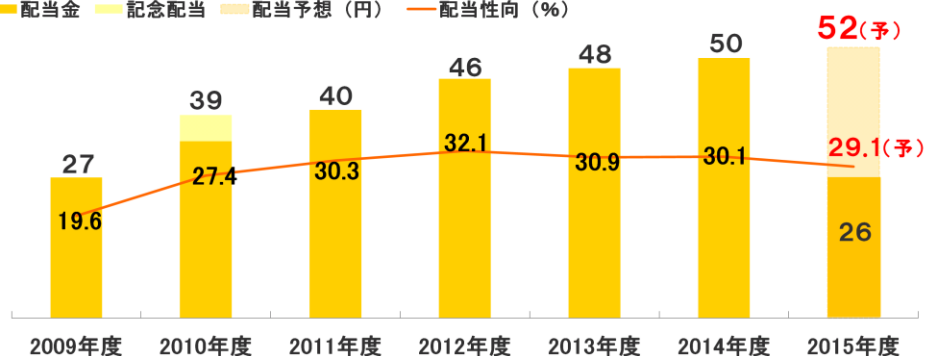
- (1) 業績見通しは期初より変更なし
- (2) 売上高2,800億円、営業利益170億円、経常利益170億円、当期純利益94億円
- (3) ROE12%程度を維持

株主還元

2005年度以降**11期連続**の増配を目指します

年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
配当額	27.0円	39.0円	40.0円	46.0円	48.0円	50.0円	52.0円
配当性向	19.6%	27.4%	30.3%	32.1%	30.9%	30.1%	29.1%

■ 配当金 ■ 記念配当 ■ 配当予想（円） — 配当性向（%）



©2015 Aeon Delight All Rights Reserved 16

【株主還元】

- (1) 2016年2月期の配当は中間配当26円、業績予想の達成を前提として
期末配当26円の52円とし、2円の増配を予定
- (2) 引き続き安定的な配当を目指し連結配当性向20%以上を目標
- (3) 内部留保資金は、持続的成長と品質の向上を目指し、イノベーション、IT、
人材育成などに積極的な投資を実施

§ 1 2016年2月期 上期の業績報告、及び通期見通し

§ 2 優先経営課題に対する取り組み

- ① 競争優位性の確立
- ② アジアでのさらなる事業拡大
- ③ 人材確保と品質向上

① 競争優位性の確立 清掃改革

実現することは、

- ① 人手不足解消と生産性改善・・・人と機械のベストミックス
- ② 環境負荷の低減・・・環境に配慮した洗剤や資機材の開発と使用普及
- ③ 清掃を科学する・・・数値による成果検証、改善課題の「見える化」

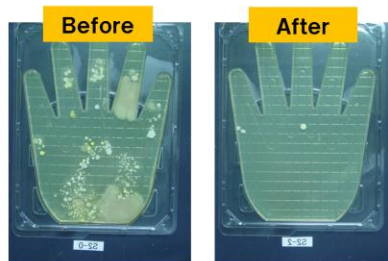
清掃ロボ



(写真左) 大型清掃ロボ
大型商業施設で検証中
(写真右) カーペット清掃ロボ
オフィスビルで検証中



電解水



手術室での手洗い消毒
(写真右) 高酸化水による消毒効果

©2015 Aeon Delight All Rights Reserved 19

【① 競争優位性の確立 清掃事業改革】

競争優位性を確立し、業界の清掃のあり方そのものを変革

(1) 人手不足解消と生産性改善(清掃ロボット新技術の開発)

- ① 清掃ロボットの実証実験で 開発メーカーに協力
- ② 清掃現場のQC活動等での地道なカイゼン
既存の清掃資機材の改良、職場のコミュニケーション活性化により
業務効率改善

(2) 環境負荷の低減

- ① 高輝度・耐久性・安全性に優れる水溶性床面コーティング剤の実用化
- ② 衛生ケミカル洗浄剤に替わる環境負荷の小さい洗浄剤の使用普及

(3) 清掃を科学する(数値による成果検証、改善課題の「見える化」)

- ① 清掃前後の衛生状況などを科学的に検証
- ② 課題が数値で見える化され、PDCAサイクルによる品質改善が可能に
- ③ 継続的なオペレーション効率の向上

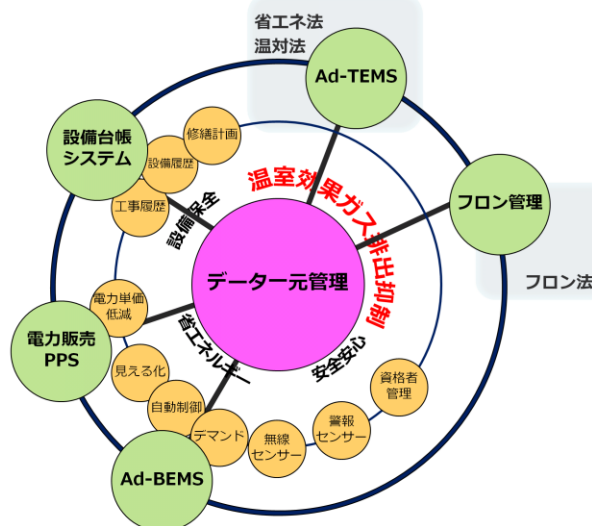
① 競争優位性の確立 新しい施設管理モデルの構築

データ一元管理により、サービスの単品提供からトータル・ファシリティ・マネジメントへ。設備管理プラットフォームを構築

施設の最適運用を提案

お客さまの

- ① コスト削減
 - ② 環境負荷低減
 - ③ 利便性向上
- を同時に適える



©2015 Aeon Delight All Rights Reserved 20

【① 競争優位性の確立 新しい施設管理モデルの構築】

(1) 設備管理プラットフォームの構築

- ① 無線センサーを活用した遠隔制御の導入により、常駐型設備管理の効率化
- ② 蓄積した設備管理データ(ビッグデータ)と当社の知見を組み合わせ、省エネだけでなく設備の最適運用を提案
- ③ データー元管理により、サービスの単品提供からトータル・ファシリティ・マネジメントへ
- ④ お客さまのコスト削減、環境負荷低減、利便性向上を同時に適える

(2) 各サービスの取り組み

- ① 既存サービス
 - ・ BEMS・・・時系列・他拠点データ比較を容易にした改良型BEMSを9月よりリリース。
 - ・ フロン管理代行・・・全国対応を強みに温室効果ガス抑制に向けて導入を拡大
- ② 新サービス
 - ・ 次世代型の遠隔制御システム・・・10月より、イオン幕張にて実証実験を開始
 - ・ 電力販売 PPS・・・スキームを検討中

② アジアでのさらなる事業拡大

アジアで環境価値を創造。事業基盤強化に向けM&Aも視野に
中国は事業基盤「強化」。アセアンは事業基盤「構築」

中国

さらなる成長に向けた事業基盤の強化

- ① ホールディングス体制を視野に入れた中国全体のガバナンス体制の強化
- ② M&A戦略によるさらなる事業拡大

アセアン

事業拡大に向けた基盤構築

- ① イオングループ内受託拡大と並行してグループ外顧客（日系・外資系）の受託拡大に向けた営業体制の強化
- ② 次なる進出国の検討

【② アジアでのさらなる事業拡大】

アジアで環境価値を創造 総合FMSで各国の環境課題解決に貢献
現地事業基盤を強化するためのM&Aも視野に
中国は事業基盤構築が一段落、さらなる成長に向けて事業基盤を「強化」
アセアンでは事業基盤「構築」を急ぎ事業拡大へ

(1) 中国

事業基盤を「強化」

- ① ホールディングス体制確立によるガバナンス体制の強化
- ② M&A戦略によるさらなる事業拡大

(2) アセアン

事業基盤を「構築」

- ① イオングループ内受託拡大と並行してグループ外顧客への営業を強化し、受託拡大を加速する
- ② 次なる進出国を検討する局面に

③ 人材確保と品質向上

本質的な経営課題の解決を図り、成長基盤を揺るぎないものに

(1) 持続的な成長を続けるための人材確保

- ① 経営人材、グローバル人材、成長分野 専門人材の確保
- ② 新規引き合い物件受託のための現場人材の確保

(2) 顧客満足度を追求する品質向上策

- ① 全センター長（現場責任者）ISO教育の徹底による危機対応力の強化
- ② サービス品質の見える化。成果を科学的に評価できる仕組み作り

©2015 Aeon Delight All Rights Reserved 22

【③ 人材確保と品質向上】

人材と品質は当社にとって本質的な経営課題と認識
中長期的な視点から取り組みを強化することで成長基盤を揺るぎないものに

(1) 持続的な成長を続けるための人材確保

- ① 未来を担う経営人材、アジアで事業を拡大していくためのグローバル人材、今後注力していく成長分野での専門人材の採用を強化
- ② 新規引き合い物件を着実に取り込むための人材確保
 - 中途採用の強化、シニア人材の積極活用

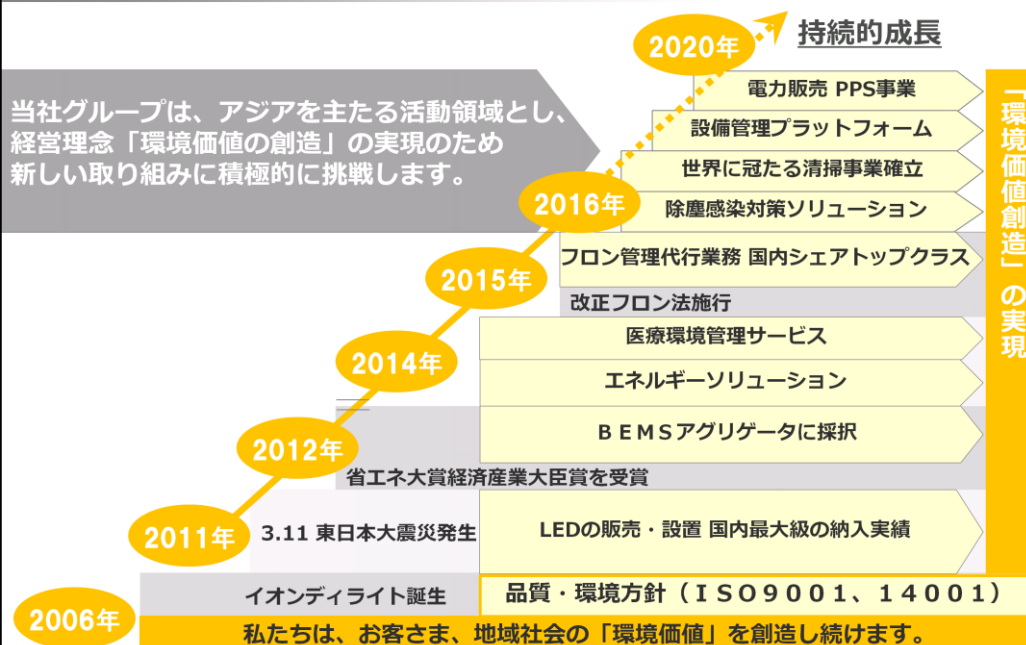
(2) 顧客満足を追求する品質向上策

- ① 全センター長（現場責任者）に対して、ISOを軸として教育を徹底
 - 監査の目を養い品質向上を図るとともに危機対応能力を向上。
- ② サービス品質の見える化。成果を科学的に評価できる仕組み作りにより業界基準を策定

私たちの目指すところ



当社グループは、アジアを主たる活動領域とし、経営理念「環境価値の創造」の実現のため新しい取り組みに積極的に挑戦します。



©2015 Aeon Delight All Rights Reserved 23

【私たちの目指すところ】

当社グループは、アジアを主たる活動領域として、私たちの経営理念である「環境価値の創造」を実現

ご意見・ご質問につきましては、下記にお願いいたします。AEON delight 

■ この資料には、イオンディライトの将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。

◇ これらの記述は、過去の事実だけではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定にもとづく見込みです。
そのため、実際の業績は見込みとは異なる可能性がありますので、ご承知置きください。

■ 資料中、特に注記がない場合を除き下記の方法により記載しております。

- ◇ 全て連結を対象として記載
- ◇ 記載金額は億円未満を切り捨て
- ◇ 比率は小数点第2位を四捨五入

イオンディライト株式会社
(証券コード:9787)

IR担当連絡先 部署名:グループ戦略本部
責任者名: 京本 明志(キョウモト ヨシユキ)
TEL 043-351-2563

又は、ホームページよりお問い合わせください。
<http://www.aeondelight.co.jp>

本日、ご説明した内容につきましては発表日当日(2015年10月7日)に入手可能な情報に基づき作成したものであり、
今後の様々な要因により業績予測につきましては、変更する場合がございます。

©2015 Aeon Delight All Rights Reserved